

1. 保健医療分野におけるICT活用推進懇談会 提言

平成29年2月8日
第35回セセプト情報等の
提供に関する有識者会議

参考資料3-1

①背景

- ◆ これまで保健医療分野でのICT活用は、サービス自体の質の向上には不十分。
 - ・保健医療分野でICTの活用によって創出すべき「価値」が共有されていないことが課題。
 - ・ICT活用の「たこつぼ化」が進行。
- ◆ 「保健医療 2035」で「情報基盤の整備と活用」を新たな保健医療システムのインフラの一つに位置づけ。
 - ・このインフラをいかに実現させていくかが「保健医療 2035」実現の鍵。

②提言の基本的な考え方

- ◆ ICTの技術革新を徹底的に取り入れる。
限られた財源を効果的・効率的に活用し、保健医療サービスの質を最大化。
- ◆ ICTの活用は、患者・国民にとって真に価値のあるものとなる必要。
「価値不在の情報化」から「患者・国民の価値主導」に切り替え、ICTの活用のあり方を考えていく。
- ◆ 患者・国民本位のオープンなインフラを整備し、患者・国民や医療機関等、産官学のデータ利活用を促進。

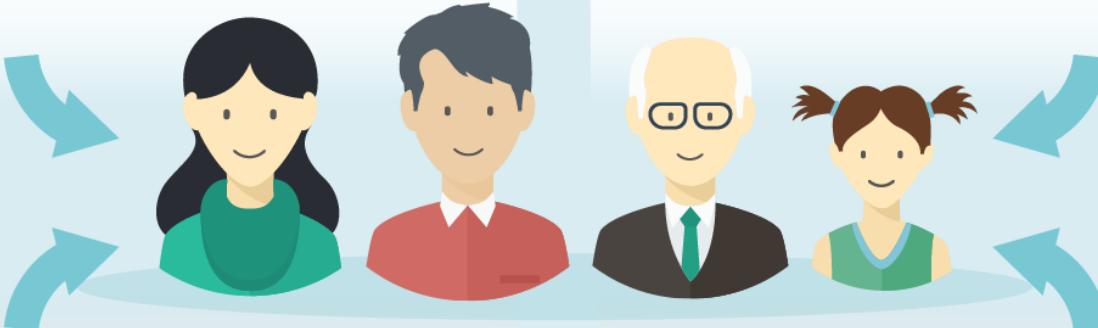
提言では、ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の姿と、これを構築するためのアクション・工程表を提示。

2. 一人ひとりに寄り添った保健医療へ

- 本提言で実現していく患者・国民にとっての価値 -

ビッグデータ活用やAIによる分析

現在、診断や治療が難しい疾患でも、個人の症状や体質に応じた、迅速・正確な検査・診断、治療が受けられる。



地域や全国の健康・医療・介護情報ネットワーク

どこでも誰でも、自身の健康・医療・介護情報が医師などに安全に共有され、かかりつけ医と連携しながら切れ目ない診療やケアが受けられる。検査や薬の重複も避けられ、負担も軽減される。

ICTを活用した遠隔診療や見守り

専門の医師がいない地域の患者や、生活の中で孤立しがちなお年寄りでも、専門医療や生活支援が受けられる。



ビッグデータ活用によるイノベーション

疾患に苦しむ様々な患者に、最適な治療や新たな薬が届けられる。魅力的な健康づくりサービスが生まれ、自身に合ったサポートが受けられる。



3. ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の考え方

価値不在の情報化

患者・国民の価値主導

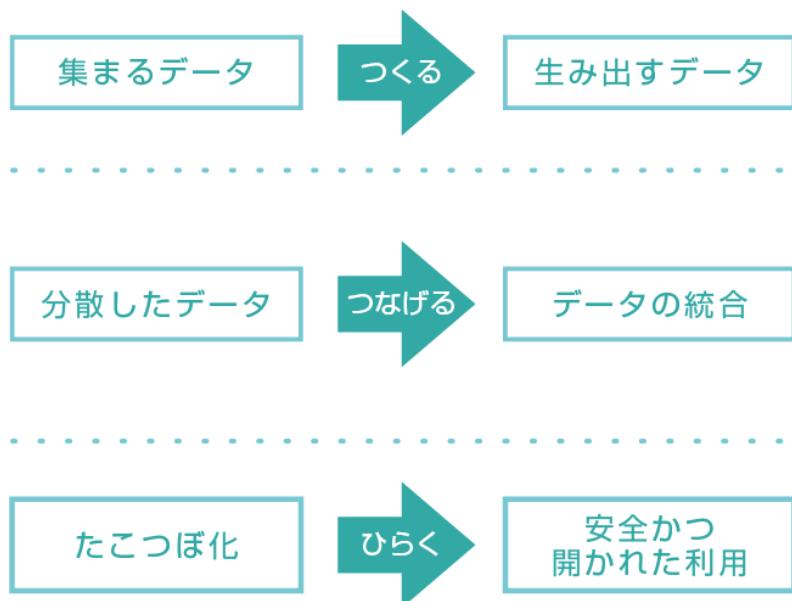
保健医療分野でのICT活用の「基本理念」：患者・国民の「well-being*」の実現

「基本理念」を達成するために創出すべき「4つの価値軸」

- ①患者本位の最適な保健医療サービス (Value for patient) / ②国民全員の主体的な健康維持 (Value for people)
- ③持続可能な保健医療提供システムの実現 (Value for community) / ④医療技術開発と産業の振興 (Value for service)

「3つのパラダイムシフト」と「3つのインフラ」

【3つのパラダイムシフト】



【3つのインフラ】

- ◆ 次世代型ヘルスケアマネジメントシステム（仮称）
 - ・最新のエビデンスや診療データを、AIを用いてビッグデータ分析し、現場の最適な診療を支援
- ◆ 患者・国民を中心に保健医療情報をどこでも活用できるオープンな情報基盤 (Person centered Open PLatform for well-being ; PeOPLe (仮称))
 - ・個人の健康なときから疾病・介護段階までの基本的な保健医療データを、その人を中心に統合
 - ・保健医療専門職に共有され、個人自らも健康管理に活用（全ての患者・国民が参加できる）
- ◆ データ利活用プラットフォーム（仮称）
 - ・「PeOPLe」（仮称）や目的別データベースから、産官学の多様なニーズに応じて、保健医療データを目的別に収集・加工（匿名化等）・提供

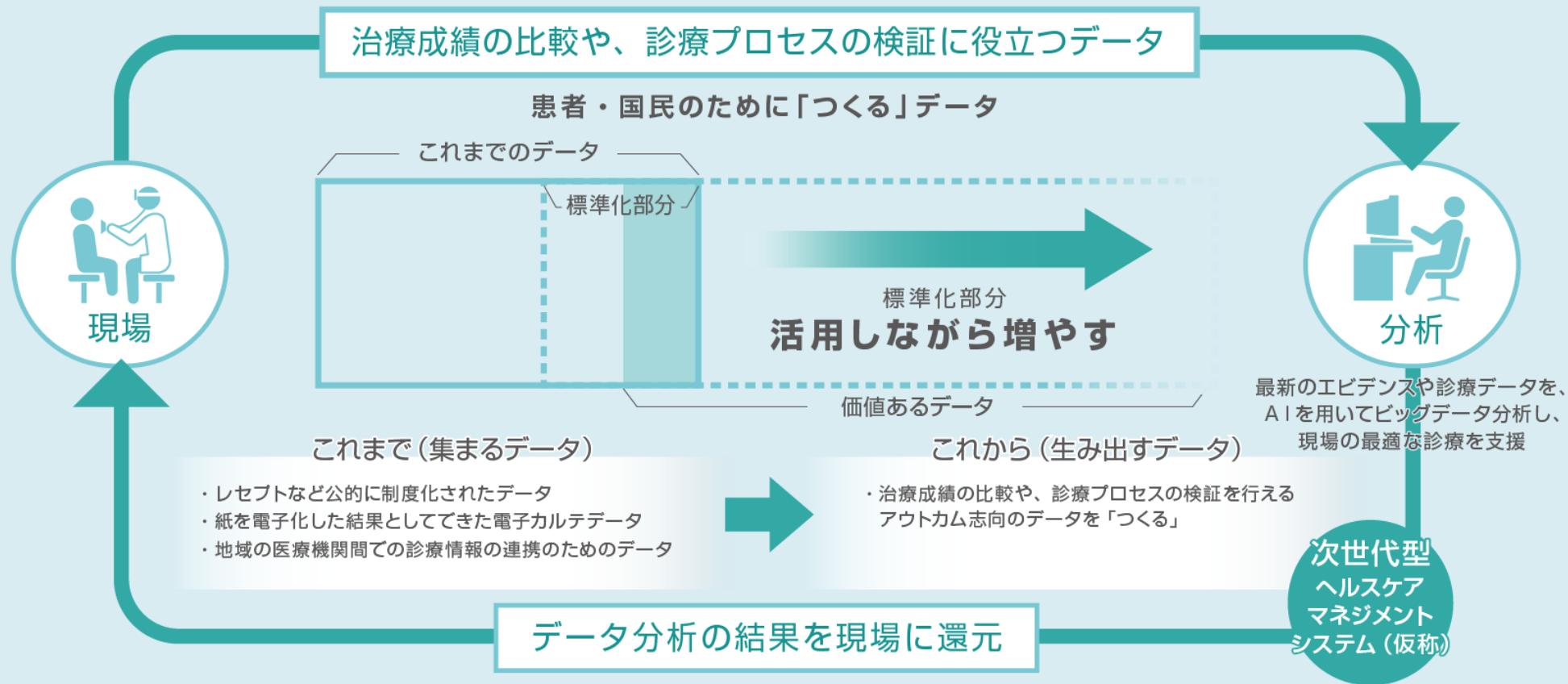
*well-being：人々の様々な生き方に対応し、国民が健やかに暮らし、病気・ケガの際には最適な医療が受けられ、いきいきと活躍し続けることができる状態・社会

4-1. 患者・国民にとって価値あるデータを「つくる」

集まるデータ

生み出すデータ

- ◆ データ収集段階から、データの集積・分析・活用（出口）で使えるアウトカム志向のデータを「つくる」。
- ◆ 最新のエビデンスや診療データを、AIを用いてビッグデータ分析し、現場の最適な診療を支援する「次世代型ヘルスケアマネジメントシステム（仮称）」を整備。
- ◆ データ分析の結果を現場へ還元・活用しながら、現場主導でデータを見直し、増やしていく自律・自走のサイクル（エコシステム）を構築。



4-2. 患者・国民中心にデータを「つなげる」

分散したデータ

データの統合

- ◆個人の健康なときから疾病・介護段階までの基本的な保健医療データを、その人中心に統合する。
- ◆保健医療専門職に共有され、個人自らも健康管理に役立てるものとして、すべての患者・国民が参加できる
「患者・国民を中心に保健医療情報をどこでも活用できるオープンな情報基盤（※PeOPLe（仮称））」を整備。

※ Person centered Open PLatform for wellbeing

PeOPLe（仮称）

Person centered Open PLatform for wellbeing

患者・国民の基本的な保健医療データを統合。

健康サポート

急性期医療

最善の環境で手術を受けた後、
その情報を共有することで、
最適なリハビリを
自宅の近くで受けることができる

かかりつけ医

かかりつけ医のサポートを
受けながら健康管理や
主体的なサービス選択ができる

リハビリテーション

救急・災害対応



国主導で患者のデータの種類や規格を統一

個人の疾病・健康状況に合わせた最適な保健医療が受けられる。

AI等の技術を活用したアルゴリズムを組み込み、質の向上・効率化を図る

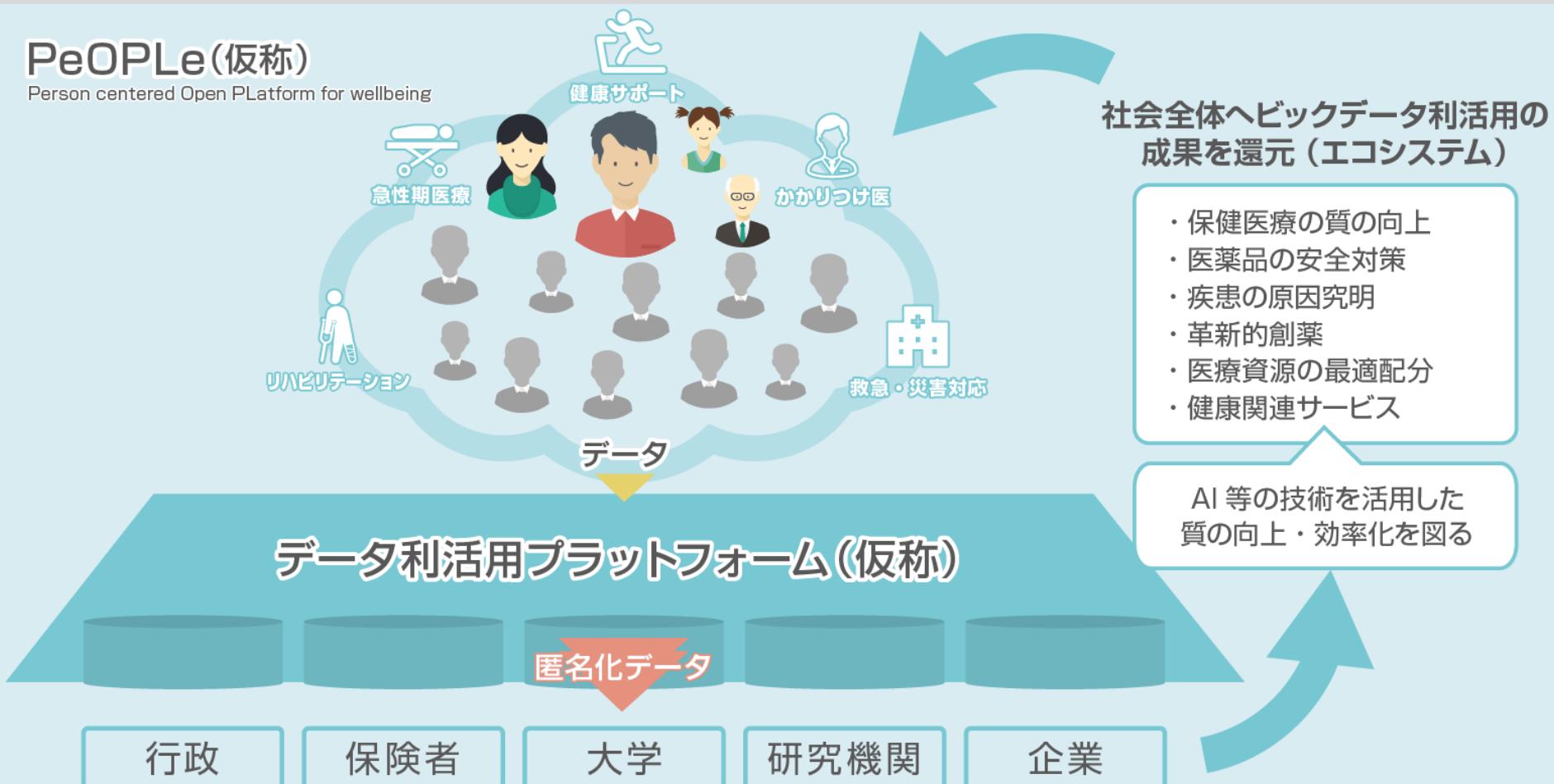
※PeOPLeへの参加は、患者・国民一人ひとりの同意を原則とする。

4-3. 保健医療の価値を高めるためデータを「ひらく」

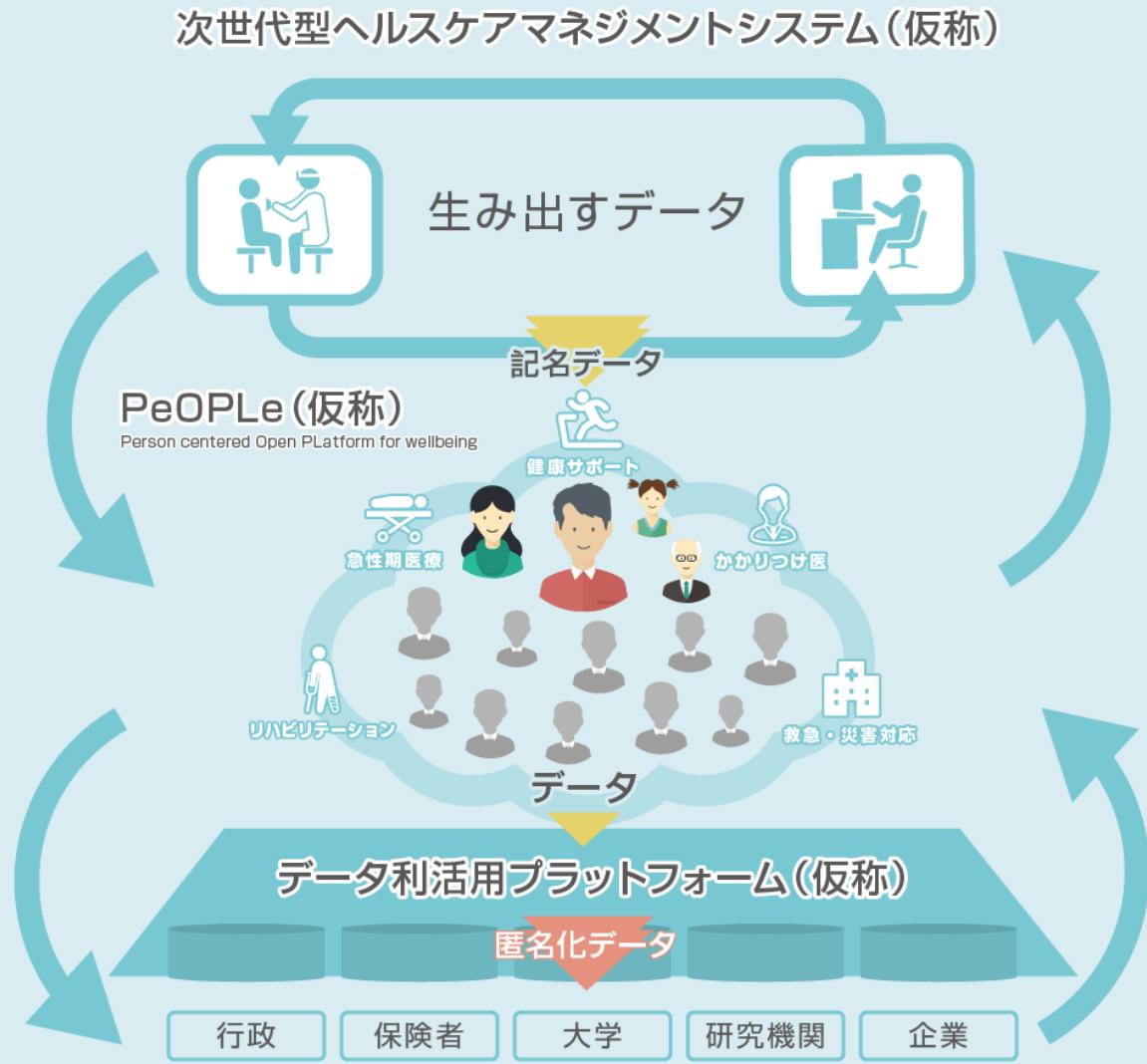
たこつぼ化

安全かつ開かれた利用

- ◆ 保健医療分野のデータを「ひらく」ことで、産官学のさまざまなアクターがデータにアクセスして、医療・介護などの保健医療データをビッグデータとして活用する。
- ◆ 「PeOPLe」(仮称) や目的別のデータベースから、産官学の多様なニーズに応じて、保健医療データを目的別に収集・加工(匿名化等) 提供できる「データ利活用プラットフォーム(仮称)」を整備。

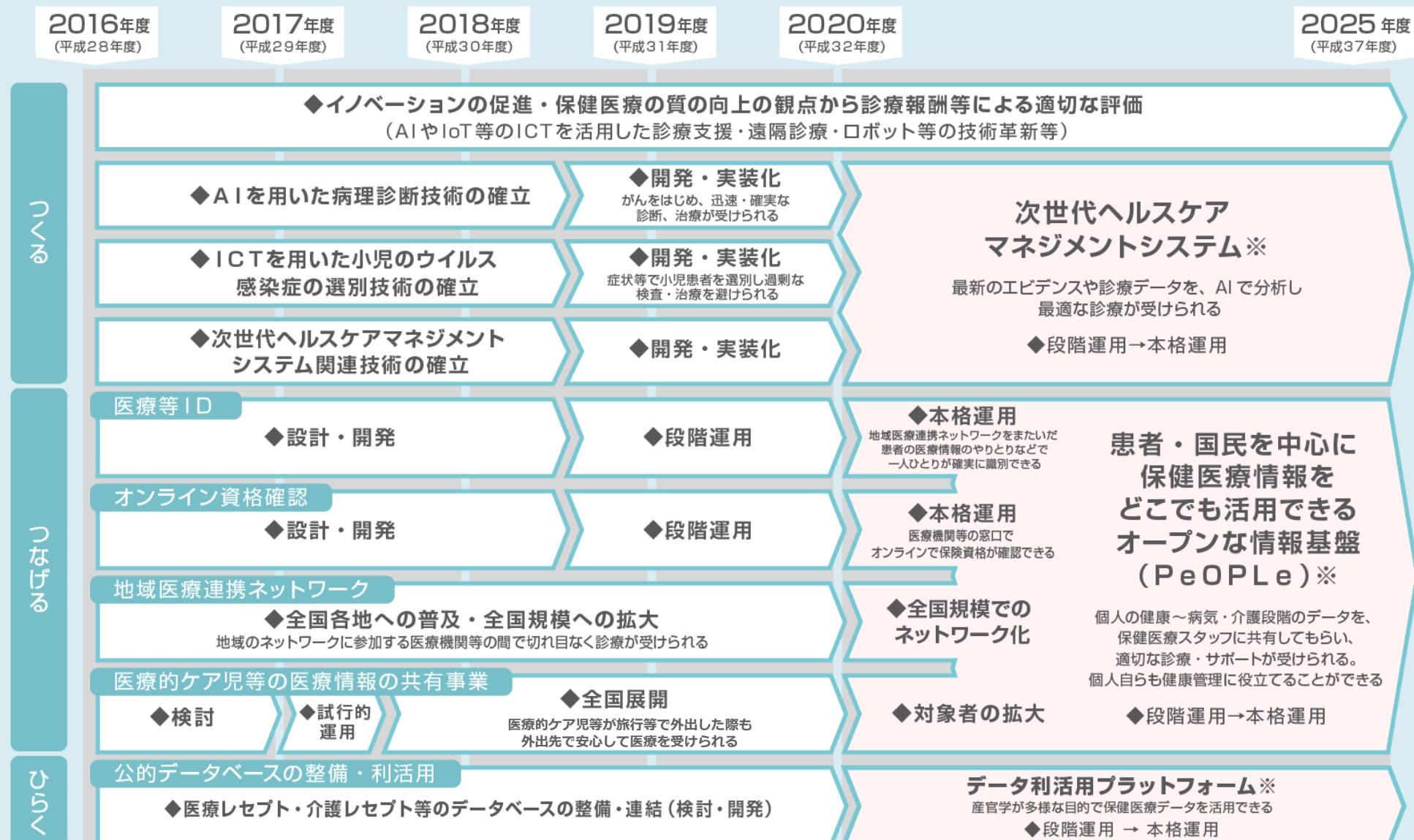


4-4. ICTを活用した「次世代型保健医療システム」(全体イメージ)



5. 「次世代型保健医療システム」の構築に向けた主なアクション・工程表

2020年度には「次世代型保健医療システム」のインフラの段階運用をめざす。



※技術革新に合わせ機能を拡充